

はじめに：貨幣の様式

貨幣の様式とは何か。貨幣は、円形か方形かなどの形態、打刻か鑄造かなどの製造法、および銘文(文字と言語、支配者名・神名・貨幣単位・年号などの表現形式)や図像において、地域や時代の別により一定の型を持っている。このような一定の型を“貨幣様式”と呼ぶ。

そこで、シルクロードの貨幣をごく大雑把にながめると幾つかの様式のあることを見取ることができる。

- I。ギリシアの円形・金型打刻銭¹。ギリシア文字・ギリシア語による銘文の中に王名の属格(～の)の銘文をふくむ。人物像(神や支配者)を図像として用いる²。
- II。中国の円形方孔・鑄造銭³。漢字・漢語により貨幣単位や年号などを記した銘文をもつ。ときにマークを用いることもあるが、通常は図像を用いない。
- III。インドの方形・刻印銭。様々なマークを図像として用いる⁴。

■ I はギリシアの代表的な貨幣様式であり、II は中国の代表的な貨幣様式である。シルクロードにあっては、I と II が主要な貨幣様式であり、III の影響は一部に限られるようにおもう。そして、I と II と III が接触する地域では、それぞれの様式の一部が混合して現れたり、新たな様式が作られたりし、更にそれが伝播することになる。

小稿では、上に述べたような貨幣の様式がどのように伝わったか即ちどのような貨幣がどこから発行されたかということを見る。交易路に沿って貨幣そのものがどこまで持ち運ばれたかということを見るわけではないことを強調しておきたい。

【参考文献（発行年順）】

田辺勝美編 1992. 『[平山コレクション]シルクロードのコイン』, 講談社。

ジョナサン・ウィリアムズ 編/湯浅起男訳 1998. 『図説 お金の歴史全書』, 東洋書林。第1刷 1998年, 第2刷 2002年。

山田勝芳 2000. 『貨幣の中国古代史』, 朝日新聞社。

(文責：吉池孝一 2010. 3. 16)

¹ 素材の両面を二つの金型で挟み、金型の一方をハンマーで叩き文様を打ち出した貨幣。なお、打刻技術の変遷についてはジョナサン・ウィリアムズ 1998 の 244-245 頁参照。

² 田辺 1992 の 54 頁参照。

³ 鑄造法については山田 2000 の 223-228 頁参照。

⁴ ジョナサン・ウィリアムズ 1998 の 172-173 頁参照。素材の片面もしくは両面に、それぞれ様々なマークを刻印した貨幣。打刻銭の一種であるが、金型で挟み込んで打刻するわけではない。